

海外大学への留学と語学学習意欲についての 2023年の調査の結果と考察

Results and Discussion of the 2023 Survey on Willingness to Study Abroad
and Study Languages at Universities Abroad

吉村 毅 YOSHIMURA Takeshi

デジタルハリウッド大学大学院 教授
Digital Hollywood University, Graduate School, Professor

韓国をはじめとするアジアの経済発展とエンターテインメントパワーの発露により、世界の国々の経済・文化面での位相が変化している。それは留学したい国、学びたい言語の変化に繋がるはずである。これまでの欧米中心であった留学先選定や学習言語に対し、どのように影響しているかを知るために、2023年1月、高校生、大学生、そして保護者の海外留学と語学学習についての意識調査を実施した。

1. 背景と課題意識

1-1 韓国エンターテインメントの顕著な台頭

日本人留学生の留学先と言えば、これまでは主に英語圏であった。留学は、英語を学ぶための語学留学と、英語圏（主にアメリカ、イギリス）の大学で「英語で」専門分野を学ぶ留学と、大まかにはこの二つに分けられた。しかし、ここ3年間の世界の国々の経済力や文化影響力の位相変化により、学生が希望する留学の動機・目的が変化してきているのではないかと感じた。仮説として、映画、TVドラマ、K-POP、WEB漫画などの文化面での躍進が著しい韓国への留学意欲と韓国語の学習意欲が相当に伸長しているという仮説をセットした。半面、欧米への留学希望率はその分、減少している可能性があるという推測も伴った。学生の志向変化の実態をあぶりだし、保護者のそれと比較するための調査を実施した。それは、結果として、私たちデジタルハリウッド大学として、高校生、大学生を教育するカリキュラムにも反映されるべきであるし、また、留学に関するアドバイスも学生の希望、トレンドを理解した上でのコンサルティングであることが望ましいと考えた。

1-2 日本からの海外留学の現状

ほとんどの先進国では海外に留学する学生数が大きく増加傾向にある中、日本から海外の高等教育機関（大学・大学院）に留学する学生数は、2004年から2010年にかけて約3割減少、その後もコロナパンデミック直前まで微増にとどまっていた（図1）。これは、コロナ以前でも、外国生活の安全への懸念、各家庭の経済的な課題、日本社会が益々ドメスティックになり海外経験と語学能力についての評価が高くないこと、などが原因であろうと推察する。

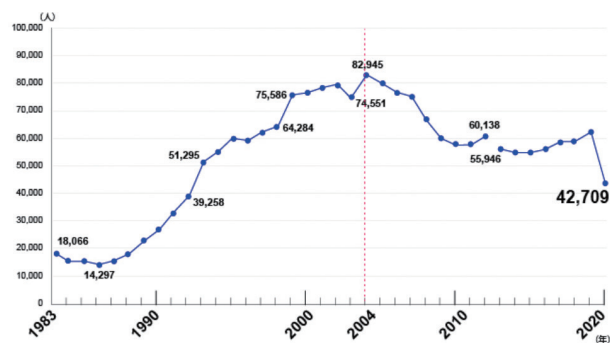


図1: 高等教育機関への留学者数の推移 [1]

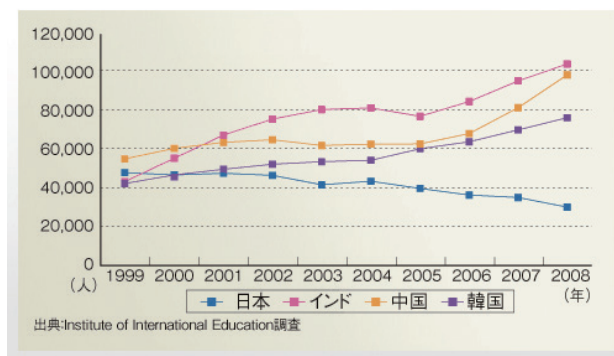


図2: 出身国別米国留学生数の推移 (実数) [2]

その中で、留学渡航先は、図3のJAOS統計調査2019「留学渡航国別の日本人留学生数」の円グラフのようにアメリカ21.9%、オーストラリア20.4%、カナダ17.0%、フィリピン10.2%、イギリス8.0%、ニュージーランド7.2%と英語圏が高いシェアを占めていた。その一方、韓国は2.6%、中国2.1%と低い比率となっていた。

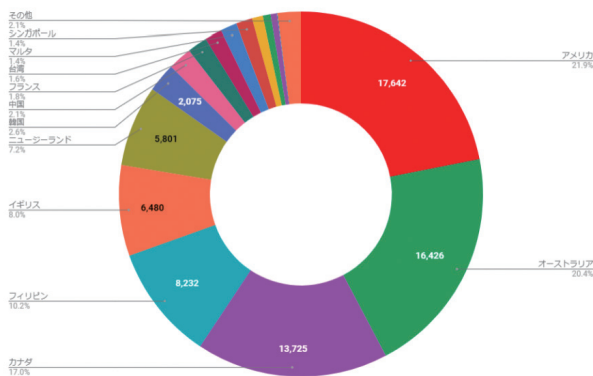


図3: 留学渡航国別の日本人留学生数 (JAOS 統計調査 2019) ^[3]

1-3 韓国に留学する各国留学生状況

しかし、日本以外の国からの韓国に留学する留学生は年々増加を続けている。

「韓国教育基本統計 2022」によれば、出身国別の留学生構成比率は、グラフのように中国の比率が高いが近年ではベトナムの比率が非常に高まっており、ベトナム人学生の向学心の高まりとその保護者の教育へのアグレッシブさが窺われる。

日本からの留学は3%程度で中国、ベトナムと比較し、低い水準にとどまっている。

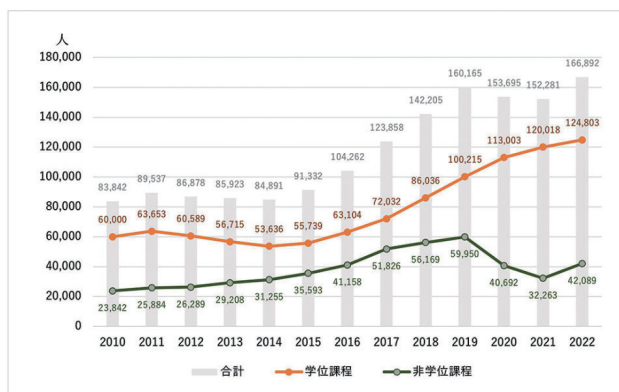


図4: 韓国における留学生数の推移 ^[4]

2022

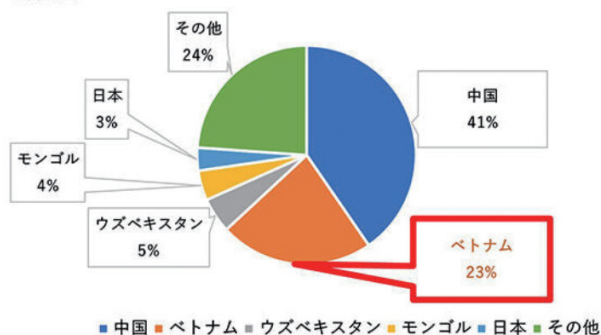


図5: 2022コロナ前後の出身国別留学生の割合 ^[5]

2. 調査の実施

高校生、大学生、その保護者に対し、留学への意欲、行きたい留学先、それと関連し、学びたい言語について、2023年1月、Tポイントサービスを運用するCCCMKホールディングス社にT会員への調査を委託した。

サンプル数は、合計2201人、高校生551人(男172人、女379人)、大学生550人(男188人、女362人)、高校生保護者550人(男361人、女189人)、大学生保護者550人(男362人、女188人)。

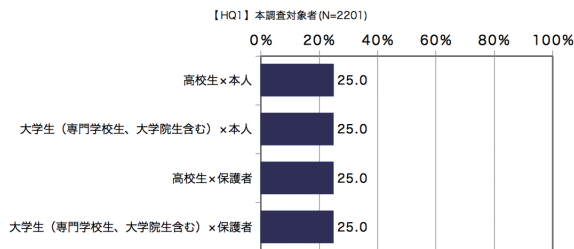


図6: 調査対象者の属性

【Q3】あなたのお子さんの年代を全てお知らせください。(複数回答可) (N=1116)

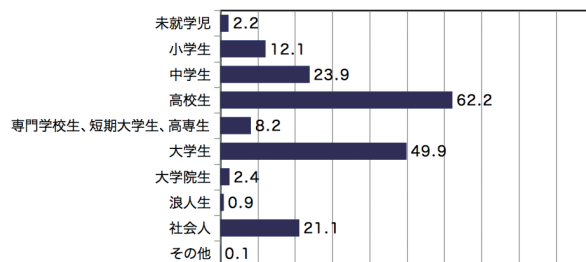


図7: 対象保護者の子供の就学段階別比率

3. 調査結果と考察

3-1 留学意欲

学生全体では、留学したいと思うが40.6%、留学したいと思わないが59.4%であったが、高校生、大学生、およびその性別で見ると、高校生は、全体で37.7%が留学したいと思っており、男性は35.5%、女性は38.8%。大学生では、全体の43.5%が留学したいと考えており、男性は37.8%、女性は46.4%。高校生より大学生が5.8ポイント留学意欲が高く、男性より女性のほうが高校生で3.3ポイント、大学生で8.6ポイント上回った。筆者の主観であるが、高校生はコロナの影響で海外に出る積極性が減少している可能性を感じる。また、女性のほうが男性より外国文化に触れてグローバルな感覚を磨きたいと考えていることが読み取れる。

また、奇しくも保護者が自分の子供を留学させたいかどうかの比率が学生のそれとほぼ同じであった。実際に留学できるかどうかは別として、グローバル化が進む時代背景の中で約60%が留学に対して消極的であることは、日本人が依然としてドメスティックなマーケットの中で生きていくことに抵抗を感じていないようにも見える。

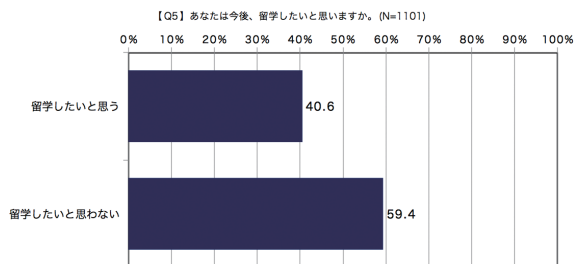


図8: 学生への留学意欲調査

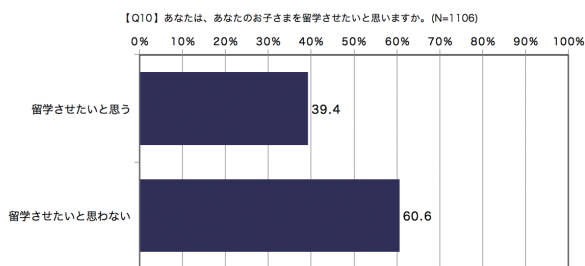


図9:保護者への留学意欲調査（子供を留学させたいか）

3-2 留学したい理由

留学したい理由として、学生は「色々なことを経験したいから」62.2%、「語学力を身に付けたい」67.8%、「視野を広げたいから」59.5%と、この三項目が圧倒的ベスト3となっている。

保護者も同様にこの三項目がベスト3であるが、「語学力を身に付けてもらいたいから」が57.8%で、学生のほうが語学学習意欲は10ポイント高く、AI翻訳による語学学習の必要性を疑問視する声も上がっている中で、保護者より若い学生のほうが外国語能力が重要であると考えているのは、やはりダイレクトなコミュニケーションが重要で、それは自分自身に外国語能力がなければ難しいと認識しているからだと考えられる。すでに外国人との交流の経験があるか、その場面をイメージできるに十分な情報を得ていると考えられる。一方、保護者の「視野を広げてもらいたいから」が73.6%で、学生のそれより約14ポイント高い。保護者は、グローバル時代への対応として、まずは、グローバルな視野が必要と考え、学生は、それを当然としつつ、一歩先の世界で活躍できる自分になるために語学能力が必要だと考えているのではないかと推察する。

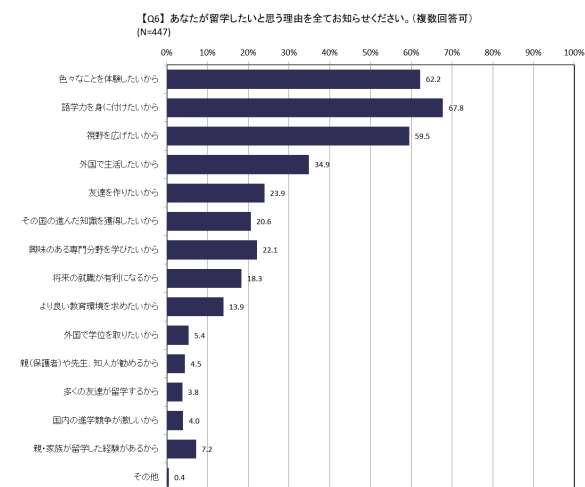


図10:留学したい理由

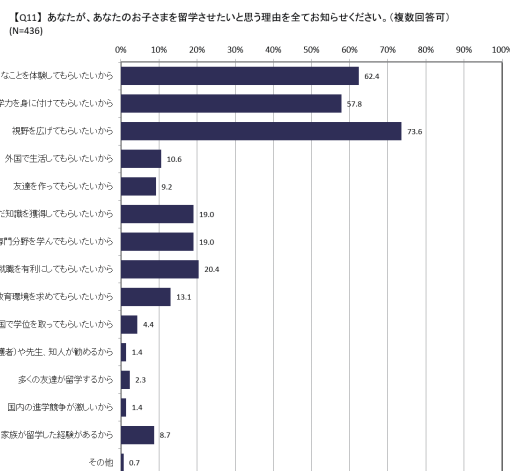


図11:保護者が留学させたい理由

3-3 学びたい言語

学生は34.7%が「韓国語を修得したい」と考えているが、保護者は11.5%だけが「韓国語を修得してほしい」と考えており、なんと23ポイント以上のギャップがある(34.7%は英語のその3分の1以上であり、10年前には想像できなかった比率である)。

原因は、この数年の韓国エンターテインメントの著しい顕在化が挙げられる。2020年にアカデミー賞作品賞を受賞した韓国映画『パラサイト』、同じ2020年『Dynamite』でビルボード「HOT100」チャート1位を記録したK-POPボーイズグループ「BTS」の活躍、2021年には韓国ドラマ『イカゲーム』がネットフリックスで94か国においてランキング1位を記録、さらには韓国発のWEB漫画の世界への普及などをはじめとする多様なジャンルに及ぶ韓国エンターテインメントが与えた影響は非常に大きい。それはエンターテインメント作品を楽しむだけでなく、韓国のファッション、コスメティックス、フードといった文化も併せて若者たちを虜にしていた。並行してサムスン、LG、ヒョンデ、CJといった韓国を代表する企業とその商品の伸長が、多くの日本企業の沈滞ぶりとは対照的にそのマインドシェアを伸ばしていることも理由として挙げられるであろう。学生層は、世界における韓国の位相の変化と将来の可能性を敏感に感じ取っているが、保護者層は、まだ過去のイメージのままであることが窺える。

また、中国語への学習意欲は、学生も保護者も27%を超えており、いずれの層も将来、中国語が有用になる時代が到来する可能性を予測しているようである。

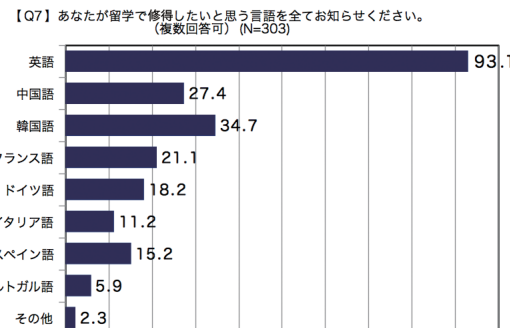


図12:学生が学びたい言語

【Q12】あなたが、お子さまに留学で修得してもらいたいと思う言語を全てお知らせください。
(複数回答可) (N=252)

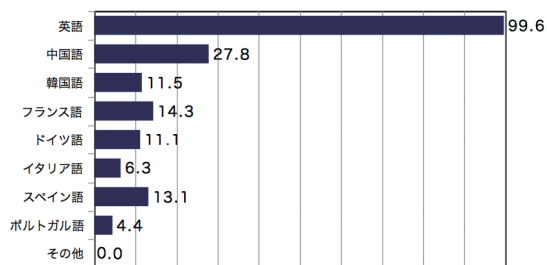


図13:保護者が子供に学んでほしい言語

3-4 留学したい国

学生は29.3%が「韓国に留学してみたい」。

保護者は7.1%のみが「韓国に留学してもらいたい」。

こちらの項目も20ポイント以上のギャップがあった。この理由は前述した内容と同様であると考ええる。この設問については、韓国以外に、フランス、ドイツ、イタリアにおいても大きな差が見られた。フランスは学生35.6%、保護者16.1% (約20ポイントのギャップ)、ドイツは学生27.5%、保護者15.6% (約12ポイントのギャップ)、イタリアは学生22.4%、保護者10.6% (約12ポイントのギャップ)、となっている。

保護者は英語圏に集中しているが、学生は、英語圏に加えて、複数の魅力的であると感じる国も対象にしていることが見て取れる。保護者が日常の生活の中で、英語がユニバーサル言語、世界の共通語となっている現実を実感しており、英語ができることのアドバンテージを強く認識していると感じる。それに対して学生は、英語の重要性和魅力を同様に感じつつ、複数回答可の結果として、いくつかの魅力的な国の文化にもひかれていていることが分かる。それが、英語に加えて、トリリンガル以上になり、保護者が考える以上の可能性を広げようとしているのか、あるいは、英語ではない言語を第二言語として身に付けて、自分の好きな分野で生きようとしているのか、さらなる調査による深掘りをしたくなった。

【Q8】あなたが留学してみたい地域を全てお知らせください。
(複数回答可) (N=447)

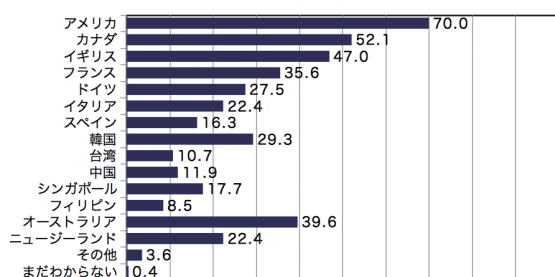


図14:留学してみたい地域

【Q13】あなたが、お子さまに留学してもらいたい地域を全てお知らせください。
(複数回答可) (N=436)

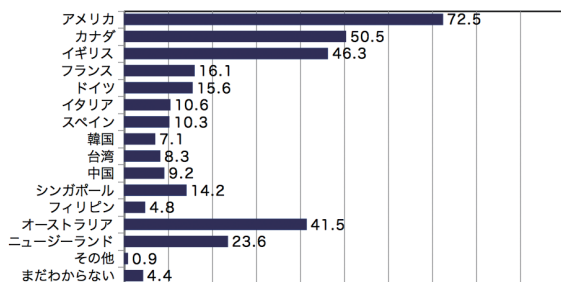


図15:子供に留学してほしい地域

4. おわりに

これまで見てきたように、日本の学生の留学意欲は他のアジア先進諸国、新興諸国と比較し高くはないものの、留学に関心を持つ約40%の学生は、海外での経験を通じて世界の文化に触れ、言語を学ぼうとする積極的な姿勢を持っている。保護者も同様である。

しかし、関心を持つ地域、つまり学びたい、交流したいと考える地域は、学生と保護者で前述のように、かなりの差異が見られた。英語圏への留学意向は学生、保護者ともに圧倒的に高く、世界の共通語、英語を学ぶ、あるいは英語で専門科目を学ぶことの重要性を認識しているが、学生は、それに加えて、韓国、フランス、ドイツ、イタリアといった個性的な文化や産業を持つ地域にも強く関心を持っている。言語においても、中国語学習については、学生、保護者ともに関心が高く、韓国語は英語圏に次ぐ人気言語となった。

これらの現象は、世界の経済的、政治的な勢力図が変化していることを感じさせるとともに、若い世代の自分らしく生きようとする意欲と、それに伴うライフスタイル多様化の芽吹きを感じた。みんなを生きずに自分を生きることができる日本人が増えるとなれば、とても喜ばしいことである。

参考文献

- [1] トビタテ!留学JAPAN『データで見る日本の留学』
<https://tobitate.mext.go.jp/about/case> (参照2023年4月20日)
- [2] リクルート『採用成功ナビ』
https://www.direct-recruiting.jp/topics/knowhow/category_010461/detail_0001.html (参照2023年4月20日)
- [3] 一般社団法人海外留学協議会JAOS『一般社団法人海外留学協議会 (JAOS) による日本人留学生数調査2019』
<https://www.jaos.or.jp/newsrelease/%E4%B8%80%E8%88%AC%E7%A4%BE%E5%9B%A3%E6%B3%95%E4%BA%BA%E6%B5%B7%E5%A4%96%E7%95%99%E5%AD%A6%E5%8D%94%E8%AD%B0%E4%BC%9Ajaos%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E7%95%99%E5%AD%A6-3> (参照2023年4月20日)
- [4] 韓国教育基本統計2022国立開発研究法人科学技術振興機構『SCIENCE PORTAL KOREA』
https://spap.jst.go.jp/korea/experience/2022/topic_ek_26.html (参照2023年4月20日)
- [5] 国立開発法人科学技術振興機構『SCIENCE PORTAL KOREA』
https://spap.jst.go.jp/korea/experience/2022/topic_ek_26.html (参照2023年4月20日)